

# 想いを伝える

高崎市立高松中学校

三年 坪井 美優

皆さんには、何か想いを伝えたい人がいますか？そしてその想いをきちんと言葉にして伝えられていきますか？私にはいます。ずっと想いを、「ありがとう」を伝えたい相手です。ですが、この想いを彼に伝えたことは一度もありません。そしてこれからも、この想いが彼に届くことは絶対にありません。

私が感謝を伝えたい相手、それは父親です。といつても、もうこの世界に父はいません。私が生まれる数日前に、交通事故にあって亡くなりました。だから、感謝を伝えるどころか、普通の家庭なら当たり前のように日々繰り返し返される他愛もない会話でさえも、父と交わしたことはありません。父のいない日常が、私にとっての当たり前前でした。

父はどんな人なのか。どんな時に怒って、どん

な時に褒めてくれるのか。どんな顔で泣いて、どんな声で笑うのか。父の手には、どんな温もりがあったのか。私のお父さんのに、知らないことばかりです。最初は、そんな普通の家庭とはかけ離れている環境がよく理解できず、周りの友達が、お父さんと手を繋いで歩く姿に、幼いながら、蟠りを感じていました。小学生の頃は、感謝どころか、母が仕事から疲れて帰ってくる姿を見る度に、会ったこともない父のことを嫌いになりました。また、人の目を気にする年頃でもあり、父がいない私を、周囲の人が労しく思っていることにも気づき始めました。「お父さんがいれば・・・」何度も父を責め何度も帰ってきてほしいと願いました。いつしか私は、父がいないこの環境をマイナスとしか捉えられなくなっていたのです。でも、今は違います。「あの言葉が私を変えた」なんていう素敵なエピソードはありませんが、父がいないから不幸せだとか、父がいない自分を可哀想だと思ふことは全くありません。きっと、父がいないことを言い訳にせず、家事に、仕事に、懸命に

励む母の姿が、私の心を強く、大きく、そして少しだけ大人にしてくれたからだと思えます。

今こうして、大切な人たちと幸せな毎日を送れている根源は、父が私に命をくれたから。父がいない悲しみを味わった分、私は人より早く、本当の意味で家族の大切さに、命の尊さに、気づくことができました。幼い頃は嫌いだった父に、今では心から感謝しています。

皆さんとは違い、父から直接何かを教わったことはありませんが、父の死から学んだことはあります。それは、想いは生きていくうちにしか届かないということ。小さい頃に抱いた不満や、嫌悪感も、今抱いている底知れない感謝も、父に届くことは一生ありません。

私は、生きていくうちにしか、想いが届かないということも、想いが届かないもどかしさも知っています。だからこそ、声を大にして言いたい。伝えたい想いがあるならば、後回しになんてしないでください。きちんと言葉にして伝えてあげてください。大切だからこそ、好きだからこそ言え

ないことがあると思えます。ですが、大切な人にこそ、伝えなければいけないんです。日々募っていく「ありがとう」も「ごめんね」も「大好きだよ」も、言葉にしなければ伝わりません。終わりの見えない気恥ずかしさを言い訳に、また今度、明日でいいやと後回しにしてはいませんか？明日やろうはばか野郎！この世界に明日を約束された人なんて誰一人としていません。大切な人が今、何の前触れもなく、消えてしまったら、皆さんは後悔せずにいられますか？『勇氣は一瞬、後悔は一生』です。

これからもずっと、私の想いが父に届くことはありませんが、この主張が、一人でも多くの人の想いを伝えるきっかけとなることで、今の私にできる父への最大の恩返しです。

最後にもう一度聞きます。

『皆さんには、何か想いを伝えたい人がいますか？そしてその想い、きちんと言葉にして伝えられていますか？』